



「住み慣れたまちで最期まで」をささえる

在宅医療

在宅医療ってなあに??

Aさん(82歳)は心臓が悪く、肺に水がたまり、病院で入院治療を受けて、症状が落ち着いたため1か月ぶりに我が家に帰ってきました。退院に際して、体に不安があっても、我が家で自分らしい生活を望んでいました。退院前に、病院の先生や看護師さん、訪問診療をしてもらうかかりつけ医の先生や訪問看護師さん、ケアマネジャーの方などが集まって、専門職のみなさんにサポートに入ってもらうことにしました。

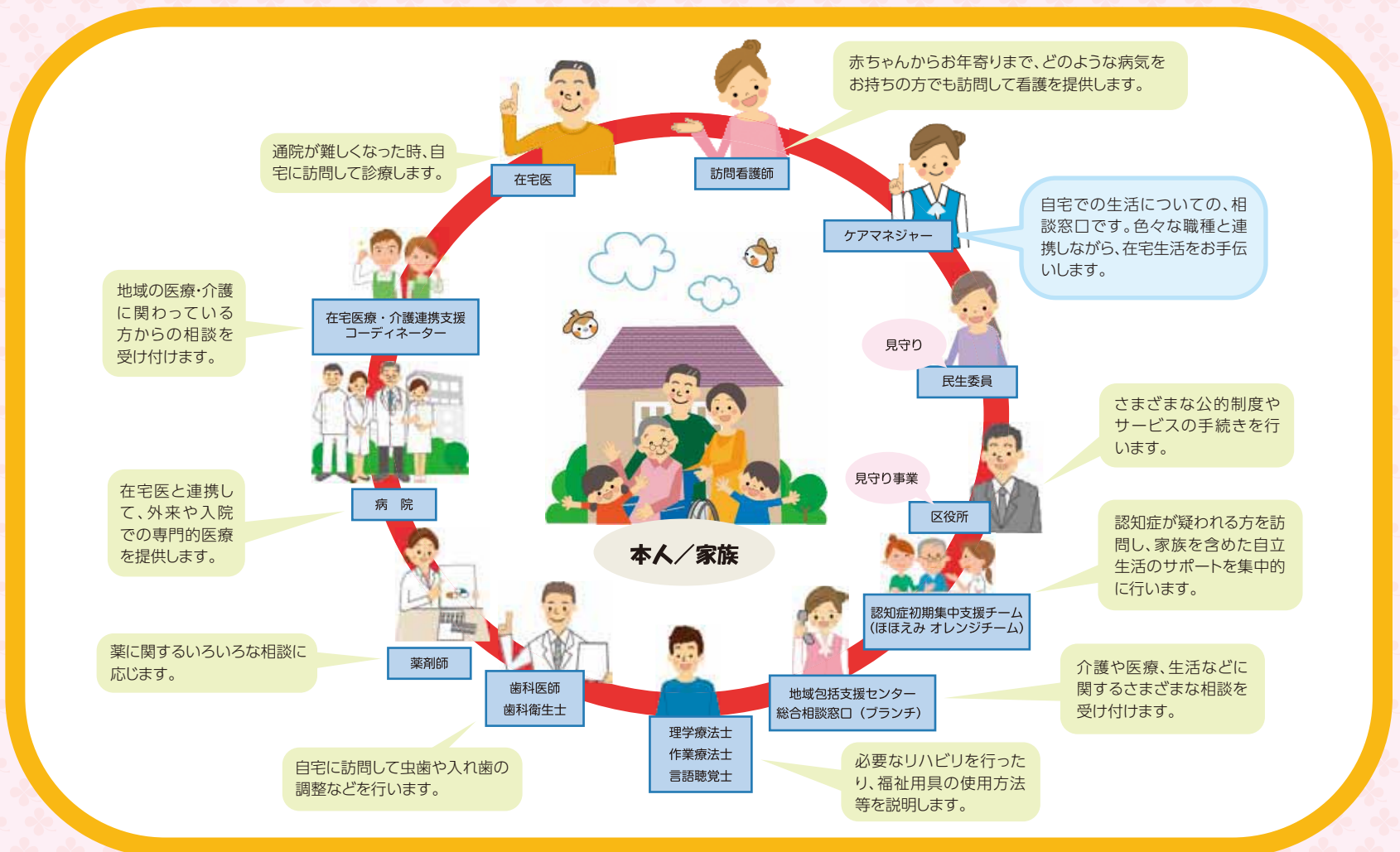
先生「Aさん、ゆうべはよく眠れましたか？」
 Aさん「うん、久しぶりによく眠れたよ」
 先生「つらくないですか？」
 Aさん「病院にいた時のほうがよっぽどつらかったよ。ここに帰ってからみんなの顔を見ていると、気分がよくなって身体も楽になったよ。おなかも空いてきたし。」
 ご飯の炊けるにおいにもじって卵焼きが焼けるにおいも漂ってきました。
 Aさん「退院できてよかった、やっぱり我が家はいいねえ。」

「ずっと我が家で暮らしたい」
 そんな思いを大切に私たちが支援します!



東淀川区医師会会長
春田龍吾

医師会では、かかりつけ医(在宅医)の確保・研修等の充実、またこぶしネットとの連携により高齢者が安全に、安心して地域で生活していけるように在宅医療の推進をはかっています。



参考:冊子「ご存知ですか?在宅医療」P5,6 東淀川区の在宅医療連携を考える会(こぶしネット)図表を引用

東淀川区の在宅医療連携を考える会(こぶしネット)とは

医療や介護のさまざまな専門スタッフがネットワークをつくり、あなたの療養生活を応援し、あなたらしい生活を支えるサポートチームです。東淀川区では、区役所とこぶしネットの多職種連携及び関係団体との協働により、在宅医療・介護連携推進事業に取り組んでいます。

【問合せ】保健企画 2階22番 電話4809-9882